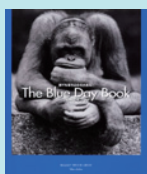


図書館だより

No.66 July, 2005



私の一冊で紹介された図書の表紙



目 次

巻頭エッセイ 「教養主義」の終焉	校長 前田三男	1
読書のすすめ 人生を救ってくれた一冊	電気電子工学科 後藤雄治	2
読書のすすめ 「身体運動における右と左」	一般科目文科 志賀 充	4
私の一冊	各学科学生6名	5
リレー連載<古典への誘い> 自動制御理論 改訂版	制御情報工学科 赤坂則之	6
前田校長よりの寄贈図書		8
平成16年度図書館利用状況		9
Information 編集後記		10

Kurume National College of Technology library
久留米工業高等専門学校図書館

「教養主義」の終焉



校長 前田 三男

学生諸君の中には高専を受験する前に、自分は理科系だろうか、文科系だろうかと悩まれた人がいるかもしれません。私は高校生まで、模型飛行機・天文・無線・オーディオといったたぐいのちょっとオタクっぽい趣味をもった典型的な「理科少年」でしたので、大学で工学部を選ぶには何の迷いもありませんでした。ところが大学に入る前後から、突然「文学青年」に変身したのです。

当時の書店には必ず50巻ぐらいの「世界文学全集」というのが各種並んでいました。私はまずそれを片端から読んでゆき、たとえばスタンダールの「赤と黒」とか「パルムの僧院」などを読んだときには、1週間ほど熱病にとりつかれたみたいになってしまいました。当時はドフトエフスキーとかトルストイといったロシア文学が盛んに読まれていましたが、私はチエホフが好きで、全作品を読みました。生来凝り性の私は「世界文学全集」を卒業すると、西洋の古典ものに興味を持ち始め、ギリシャ劇を経て、最後はプラトンあたりに行き着いたようです。

ところが、そういったものを原語で読むほどの語学力がなかった私は、堅い翻訳調の文章にアレルギーを感じるようになり、途中から日本文学に転向しました。きっかけは谷崎潤一郎の訳で「源氏物語」を読んだあたりでした。「源氏物語」は高校や大学の教養課程で何度も講義を受けましたが、実におもしろい長編小説だということ、通読して初めて知りました。私が古典も含め日本文学を好んで読むようになったのは、「日本語で何が表現できるか」という問題に興味を持ったからかもしれません。

私の大学生生活は、本とレコードに埋もれた4年間でした。私の読む本は書店の本棚には並んでいないことが多いので、大学の前にある小さな書店に注文して取

り寄せていました。ところがある日、珍しく物理学の本を買ったら、書店のおばさんから「あら、前田さんはこんな難しい本もお読みになるの?」と言われました。私はてっきり文学部の学生と思われていたみたいです。ご多分に漏れず、自分でもこっそり小説を書いたりしていました。そんな具合で、本を読みすぎて少々神経衰弱気味になり、あまり健康的な学生生活とはいえませんでした。

しかし、大学院に進み、研究に興味が出始めると、生活に自然とあるバランスができてきたようです。それと同時に私の読書欲は少しずつ減退してゆきました。それでも結婚して2LDKの公団アパートに引っ越さないといけないう事態が起こったときには、それまでたまっていた本とLPレコードを整理するのに苦労しました。値段の安い文庫本や雑誌は、そのときたいてい捨ててしまいましたが、それでも引っ越しの時には段ボール箱で50箱ぐらいの本がありました。

今になって、学生時代の私を読書に駆り立てた原動力は何だったのかと振り返ってみると、それは一種の「教養主義」だったような気がします。「教養主義」というのは平たく言えば、哲学や文学、芸術方面の古典的な知識を仕入れてきて、他の人に差をつけようとするある種のエリート意識に支えられています。プラトンのアカデミア以来「知的エリートの育成」を基本理念とする西洋の大学では、常にこの「教養主義」が底流にありましたが、戦前の旧制高校や帝国大学にそのまま受け継がれました。

私の学生時代にはまだその名残があって、一応大学生は「戦争と平和」ぐらいは読んでおかないと恥ずかしいといった雰囲気でした。凝り性の私は普通の学生より、より深くのめり込んでしまっただけです。確かに大学生の「教養主義」は、聞きかじりの知識をふ

りまわず青臭いものですが、私にとってはこの時期の読書が人格形成の基礎になったような気がします。

大学に長年勤めているとよくわかるのですが、この種の「教養主義」は 1970 年頃の学園紛争によって終焉しました。それは書店の本棚から「世界文学全集」が消えてしまった時期と一致しています。その後の学生たちが人格形成のよりどころを何に求めているかは大変興味あるテーマですが、紙数が尽きたのでここでは触れません。

私は毎日西鉄電車で福岡から久留米高専に通っていますが、往復の電車の中が手持ちぶさたなので、書棚から久しぶりに古い本を引っ張り出してきて、読んでいます。最近読んだ本のなかで意外におもしろかったのは、夏目漱石の「三四郎」です。これは熊本の旧制高校を卒業して、東京帝国大学に入学した三四郎が、美彌子という東京のハイカラなお嬢さんに恋をして、結局失恋するという単純な筋書きの青春小説ですが、その背後に横溢している濃厚な「教養主義」が大変懐かしく感じられました。

特集 読書のすすめ

人生を救ってくれた一冊



電気電子工学科 後藤 雄治

人生には誰でも1度や2度、輝く時期があると言われるが、自分のその時期は中学の時であった様に感じる。自分は中学時代を神奈川県横浜市で過ごした。中学時代は陸上競技の短距離選手として市内 140 校の中学校が参加する横浜市大会で5位(100m、11秒5)の成績を誇った。また陸上以外にも様々な運動に関する功績が評価され、横浜市長より「体育活動優秀選手」として表彰も受けた。部活では部長を勤める傍ら生徒会役員や学級委員長も歴任し、横浜市主催の「リーダー研修会」に招待参加するなど内外からの人望も厚かった。また勉強においても常に学年で上位を維持し、東京の某私立大学付属高校から個人名で推薦が来るほどであった(もちろん一つ返事で断った)。当然のごとく高校進学は県内有数の進学校を志望し、自他共に合格できると信じていた。しかし良い時期はそう長くは続かない。自分は滑り止めとして受験したある私立進学高校に合格し、本命である学区トップの県立高校を目指した。入試科目は主要5教科であったが悪夢の始まりは自分の得意科目である理科の試験時間であった。試験開始後 20 分が経過した時、どうしてもトイレに行きたくなり試験監督に申出をした。

すると試験監督は本部に問い合わせをしてみると言って教室を出たっきり試験時間が終了するまで戻らなかった。自分は我慢の限界との格闘を強いられ、半分も解けずに提出せざるを得なくなった。理科を除く全ての教科で 90 点以上を得ていたものの、理科一教科のために高校を落ちた…。合格発表前、自分の中学校校長がこの高校に出向き、抗議をして下さったが聞き入れられなかった。自分の実力が発揮されないまま、負け犬になる事が何より悔しかった。しかし、ここで朗報が舞い降りた。隣の学区のトップ県立高校が定員割れを起し、10年ぶりに2次募集を行うとの情報である。担任の先生の強い勧めもあって自分はその高校受験に全てを賭けた。その高校は県下でも3本の指に入る名門県立高校で、さらに難易度が高かった。試験はととても良い手ごたえを感じ、自己採点では全教科で9割以上、数学にいたっては100点である結果を得た。自他共に合格を確信し卒業式の前日に開示される合格発表日が待ち遠しかった。合格発表当日は発表会場であるその高校に行く途中、合格後の高校生活を考え、その高校最寄のバス停の時刻表をメモしていたほど合格に自信

があった。しかし結果は不合格であった。後で聞いた話であるが3教科以上 100 点を取らないと合格できないほど受験層のレベルが高かった様である。自分は失意の中、「これで諦めも付いた。滑り止めに合格していた高校に進学して大学受験で頑張ろう。」と自分を慰め、中学に戻った。しかし悪夢は続く。中学に戻り職員室に入ったとたん、校長、教頭、学年主任そして親が集結している目の前で「君には行く高校が無い!!」と告げられた。自分には内緒で、2 次募集を受験する段階で滑り止めに合格していた高校には入学辞退の通知を出していたそうである。自分は思考能力を失った。その後、教頭の計らいで何とか受け入れてもらえる高校を探し、半ば裏口入学同然の形で高校には入学できたものの、そこは県内有数の私立スポーツ校で、偏差値的には自分の実力より 20 も値の低い高校に入学するはめになってしまった。今でこそ「西武ライオンズの松坂投手」の出現によって有名に成りはしたが、当時は不良が渦巻くボンクラ男子校で恐れられていた。晴れて高校生に成れはしたものの、短期間の内にあまりの急激なショックを受けたため深く心が傷つき、精神が壊れて、うつ病状態に陥ってしまった。人生初めての挫折である。毎朝目覚める事に恐怖を感じ、人生の価値が見出せなく、ただ息をして食べ物を口に運ぶだけで精一杯の日々が続いた。思い起こすのはいつも楽しかった中学時代の出来事ばかりで、未来に対する夢などは一切感じられなかった。何度か自殺を試みたが最後にいつも実施する勇気が無く、その情なさや悔しさで流れ出る涙も枯れはてた…。「友人達は楽しい高校生活を満喫しているのに、どうして自分だけが？」と答えの無い自問自答を繰り返す日々であった。そんな中、人生を大きく変える本に出会った。それは講談社 BLUE BACKS シリーズの「SF はどこまで実現するか？」という本である。内容は SF 映画等で出てくるハイテクノロジーが現代科学でどこまで実現できるのかを、分かりやすく科学的に説明した本であった。磁気浮上列車を始め、スクリーが無い高速船、超高速コンピュータや反物質を使用した効率 100%の夢のエネルギーなど、どれも希望溢れる現実的に手が届きそうな夢物語であった。自分は夢中になって読みあさった。どのページにも否定的な言葉は無い。困難に挑戦していく事、失敗して

も諦めない力強さ、そして社会に貢献する喜びなど、それまでの自分には無い前向きな姿勢ばかりの内容であった。研究者の不断の努力、孤独との戦いが世界人類の生活を豊かなものに変え、大きく社会に貢献できる事を知り、強い憧れを感じた。この本は、それまで中学時代の思い出だけで生きていた自分に、未来を夢見る勇気を与えてくれた。そして何より人生を諦めきっていた自分に、大学への進学意欲を掻き立ててくれた。「こんな落ちぶれた自分にも、何か社会に貢献できる事があるかもしれない」と思い、大学受験に本気で挑戦する決意をした。しかし高校生に成り、全く勉強が手につかなかった自分にとって、大学受験は人生を賭ける大きな障害であった。拍車をかけて自分は第二次ベビーブームの世代でもあり、受験人口が過去最大の時代で、そう簡単には大学に合格は出来なかった。当然、浪人生活を余儀なくされ、通算 20 数校の大学からの不合格通知を受け取る苦い経験をした。何度も諦めかけたが、藁をもつかむ思いで何とか大学に進学する事が出来た。多くの面で辛い経験もしたが、その本に出会っていなければ確実に今の自分は存在しなかった。「本」は人を救い、希望や夢、そして生きる活力を与えてくれる。人生を大きく左右する「本」に巡り合う事が出来た偶然に感謝すると共に、現在も、一人のエンジニアとして夢を追い続けている。



特集 読書のすすめ

「身体運動における右と左」



一般科目・文科 志賀 充

本書を紹介するにあたりまず、皆さんに少し考えていただきたいことがあります、

- *あなたは箸を右で持ちますか？左で持ちますか？
- *石を拾って投げるときに右で投げますか、左で投げますか？
- *あなたは歩き出すときに右足から前に出し始めますか？左足から前に出し始めますか？
- *あなたが長い間立っている場合に右足加重が楽ですか？左足加重が楽ですか？
- *同じ重さのものを両手で持つときと片手で持つときとは、どちらが体に負担が少ないと考えますか？

このように私達が何かしらの動作を行う場合、右・左というものを巧みに使い、そしてある行動には右・左と分けて行動をしていると言えます。また最近では身体内部の脳でも役割があるといわれます。右脳はイメージや感覚に優れた機能を持ち、左脳は言語や記憶の蓄積など深い思考に関連する機能に優れるということです。

このように身体及び身体内部で右・左の使い分けをしているにもかかわらず、いざ、身体の右と左を考えた場合、様々な点で左右差がないほうが良いと考えていませんか？本当にそうでしょうか？

本書はこのような疑問から筆者、小田伸午先生（京都大学）が生理学を専門とする研究者の立場と元ラグビー日本学生選抜の監督という2つの立場から、これらの身体の左右（片側・両側）に関してわかり易く説明を加えています。

本の一説によれば、左右の手である物を握る場合、右手（片側の手）で握る時よりも速度が遅く、更に握る力が低下することです。これは簡単に言えば、右の脳

は左手の筋と左の脳は右手の筋と結びついていて、両方を同時に力を発揮する場合に左と右の脳が互いに抑制しあって若干活動を低下させるということなのです。更に筆者は、野球のピッチャーや槍投げ、バレーのアタッカーなど片側（上半身）に依存するスポーツ選手が、必死に両手でバーベルを上げ下げして腕を鍛えていることの無意味さを指摘しています。これは試合時に片側で行われる運動神経支配とトレーニングで鍛えている両側の神経支配が異なることから、上手く試合でトレーニングの成果を出せないことを示しています。つまり、片側を良く使う競技は、片方の腕毎に鍛えていくことが大切であるということなのです。

少し難しい話になりましたが、このような内容がより簡単に書かれ、身体運動の魅力をかき立ててくれる一冊であると思います。私も1998年にこの本に出会い、それ以来、身体における右と左に関して非常に興味を持ちました。そして、この本をキッカケとして、研究もジャンプ動作時の左右差や左右脚の作用に関して研究をしています。また、偶然にもこの久留米高専に来てから様々な方にお会いする中で、今回紹介した「身体運動における右・左」の筆者である小田先生をご紹介して頂き、共同研究や意見交換ができる可能性が出てきました。私にとってこの本は、何かキッカケを与えてくれた本であり、そして何か不思議な縁を感じる本のようなのです。皆さんも是非、読んで頂き、不思議なスポーツへの世界、魅力に触れてほしいものです。

※ 本書について

小田 伸午 著 京都大学学術出版

私の一冊



R・P・ファインマン著 大貫 昌子訳
ご冗談でしょう、ファインマンさんⅠ
岩波書店

私が薦めるこの本はノーベル賞物理学者であるファインマンさんの自伝です。特に理系の教科が好きな人は楽しく読むことができるのではないかと思います。というのも、この本にあるエピソードの数々には数学や物理のエッセンスが絡まっており、「むむ、この人頭いいなあ」思わずにはいられない内容だからです。彼の人柄、心情、着眼点など学ぶべき所はいくらでもあります。この本を読めば、きっとあなたもファインマンさんのファンになっていることでしょう。また、彼はファインマン物理学という基礎的な物理学を体系的にまとめた素晴らしい教科書を書いているので、そちらもぜひ読んでみることを勧めます。

(制御情報工学科5年 中村 謙也)

筒井 康隆著

虚航船団

新潮社

私「まずコンパスが登場する。彼は気がくるっていた。針のつけ根がゆるんでいたので完全な円は描けなかったが自分はそれを完全な円だと信じこんでいた。」私がこの本を初めて手にとった時、何だこの本はと思った。何故かスマートさにこだわるコンパス。存在自体がパロディな消しゴム。痛々しいホチキス。25枚1組一心同体の雲形定規。名に反して異常な肥後守正常。アル中がエスカレートして燃料用のアルコールに手を出す金銭出納簿。それぞれ人格を持つ文房具達が宇宙船に乗り見知らぬ星に着陸、その住民達と戦うという変な物語である。とても笑える。そして次々に戦死していく文房具達が切ない。私の忘れられない一冊だ。

(材料工学科4年 島崎 恵)

京極 夏彦著

姑獲鳥の夏

講談社

この物語は主人公の関口という男が「二十ヶ月間妊娠している女性」の噂について京極堂という友人を訪ねる所から始まる。京極堂は、関口に対して噂とは全く関係無い事を喋り出すが、それがこの物語の独特な世界への入り口だ。私は何度もこの本を読んでいる。その度に、暗くて激しい世界に引きずりこまれる。この物語にはあるロジックが仕掛けられており、読むと夢と現の境を操られたような錯覚に陥り、その為私はただ噂話に首をつっこんだだけなのに振り回されて深みにはまっていく主人公に強く感情移入してしまう。この面白さは私にとってこの本を何度も読み返すに値するので、他の人にも是非読んで欲しいと思う。

(生物応用化学科4年 吉田 あい子)

ダン・ブラウン著

越前 敏弥訳

ダ・ヴィンチ・コード(上・下)

角川書店

壮大なキリスト教の歴史、そこに隠された驚くべき真実、それを伝えるダ・ヴィンチの作品に秘められたメッセージ。ある殺人事件をきっかけに、それらの謎解きが始まる。

私を含めたキリスト教になじみの薄い日本人には、いまいちピンとこない作品かもしれない。しかし、次々に解き明かされる暗号の面白さとその衝撃が、飽きさせないスピード感と共に、小説の世界へと一気に引き込んでくれる。

書いている内容が事実であるかどうかは知る由もないが、知的好奇心をいたく刺激され、芸術・宗教・数学など多方面に興味を持つことができた。

(物質工学専攻1年 千々石 歩美)

Bradley Trevor Greive 著 石田 亨訳

The Blue Day Book

竹書房

誰にでも落ち込む日はあります。落ち込んだときの復活法として、やけ食い、カラオケ、ビリヤード etc・・・ありますが、僕がオススメしたい方法はこの本を読むことです。「本を読むの??」っと驚く方も居ると思いますが、この「The Blue Day Book」は何も考えずにスラスラ読める・・・っというか写真が主です。文は 1 ページに一行ほどです。なによりこの写真が面白いのです。写真は動物たちの面白おかしい写真で、一緒に添えられているわずかな文がやけにマッチする写真です。見てみると自然に笑みがこぼれてきます。そして、五分十分で読み終え読んだあとは何故か励まされた気分になり元気になれます。この本は落ち込んでいたりときや落ち込んでいなくてもなんとなく手を伸ばしたくなるそんなすばらしい本です。是非読んでみて下さい。

(機械工学科 4 年 牛尾 征嵩)

妹尾 河童著

少年 H (上・下)

講談社

私が今まで本を読んできた中で一番印象に残っているのは、「少年 H」という本です。この本は、作者の妹尾河童さんの少年時代の経験をもとに作られた小説です。私は戦前の日本は、戦争や食糧不足など、暗いイメージばかり持っていました。しかし、この本を読んで必ずしもそういうことばかりではないということが分かりました。戦争中でも人々の暮らしの中には活気があり、空襲で家がなくなっても人々はそんなに落胆することなく、これからどう復興していくかという前向きな考え、空襲や戦争に行って大切な人を失う悲しさや、戦争をすることの悲しさや苦しさが伝わってくる作品でした。

(電気電子工学科 5 年 深山 明宏)

リレー連載 —〈古典への誘い〉—

自動制御理論 改訂版

制御情報工学科 赤坂 則之

今回の〈古典への誘い〉は、制御情報工学科から紹介することになりましたが、本書を選んだ動機は、その内容の完結さの他に、紹介者である私の個人的思い出からです。本書の紹介を追加しますと、著者は高橋安人(「やすんど」と読みます)、出版社は岩波書店で岩波全書シリーズ B6 版サイズ、295 頁の本です。私が大学生のときに教科書として 1965 年(40 年前です)に 350 円で購入しました。

大学 3 年生のときの「自動制御概論」という講義の教科書に使われました。ここで、この本に関する私の苦い経験をお話します。私は「機械工学科」の学生で「制御工学科」の学生ではないという認識、もう 1 つはこの講義は 1 時間目であったという 2 つの理由から、この講義を満足に受けませんでした。したがって、大学で、この

教科書を読んだのは、単位取得のための俄か勉強のときだけで始めの数章でした。ところが、企業に就職して言われた仕事は「火力発電用ボイラの自動制御」でした。機械工学科を卒業しても「制御」の仕事をやられたこと、学校は「機械工学科」のカリキュラムに「制御」の授業を組んでいたこと、この 2 つに驚きました。さらに読むようにと渡された本は、授業「自動制御概論」をされた寺野寿郎先生の「ボイラ動特性」でした。このときは寺野先生の授業をまじめに受けなかったことを神様に見られていたような気がしました。

教訓 I : 学校の授業は、学生の判断で「軽重」をつけることなく、真摯にすべての授業を受けること。

苦難は続きます。「蒸気温度制御」の仕事に取組みました。自己流の温度制御系の設計を行い、念のため計算機

シミュレーションを行いました。どうしても制御系が不安定になります。悲しいことに、「なぜ、不安定になるのか」、が解りません。自己流の制御系設計法の内容は恥ずかしいので、ここでは書きません。大学の授業が半年でしたので、制御系設計にまで到達していなかったかも知れません。企業では、時間との勝負です。早急に原因を明らかにしなければなりません。進入社員に与えられる仕事は、職場の上司も解らない。逆の言い方をすれば、職場の上司が解らない仕事が、進入社員に与えられる。このことも大学の先生が教えてくれました。自分で解決するしかありません。今日紹介した「自動制御理論改定版」が、私が当時所有していた唯一の制御の本で、幸い独身寮の書棚に積まれてあるのを見つけました。解決法にめぐり合えるか解りませんでした。一冊しかないで初めから一生懸命読みました。2 日目に 295 頁の中ほどまできたとき、原因すなわち、自己流の温度制御系設計法の誤りが解りました。このことが、本書を選んだ動機として、その内容の完結さを挙げさせてもらった理由です。ろくに勉強していない者に、2 日間で制御系設計のかなり厄介な問題の原因（解決法）を示してくれたことです。本書の完結さは偶然ではなく、著者（当時カリフォルニア大学バークレー校教授）は、序で次のように記しています。

「自動制御の円満な進歩は理論と実際の歩みよりと、広く各専門にわたる技術者の協力にまつところが大きい。

本書が自動制御に共通の考え方、扱い方を広く諸方面の読者に伝えるのに役立ち、この大きな目標の達成に少しでも貢献するならば何よりの幸せである。…」

解決法にめぐり合えたとき、本書が学校の教科書としてだけでなく、読者に企業等の現場で制御の技術課題に取り組む技術者も想定した書き方がなされていたことに感謝しました。それから 40 年経過した今、今度は学校の授業の参考資料に使わせてもらっています。

教訓Ⅱ：本は 40 年たっても役に立つ。大事に扱うこと。

本書の初版本が 1953 年に書かれたとき、著者は第 1 ページで“Automation”という言葉を使っています。改定版の序で、3 年後の 1956 年頃から「オートメーション」という言葉が大流行するとは予想できなかったとも記しています。本書の改定版序での予見「プラントが自動設計され、“人工頭脳”がそのプラントを自動操作する社会はまだ夢でしかない。自動化が進むほどますます人類の頭脳が要求される折柄、…」にこたえるべく学生諸君の努力に期待します。なお高橋先生は 1979～1982 年まで、豊橋技術科学大学で教鞭をとられたこともありますが、1996 年 84 歳でご逝去されました。高橋先生のご活躍は奥様久和子様の HP：www.sonic.net/~kuwako で見ることができます。また、本書〔初版〕は本校図書館の蔵書にもありますので、興味ある人は是非一読してください。



前田校長よりの寄贈図書

本号の巻頭エッセイにも書きましたように、我が家は本であらわれています。その後娘たちが持ち込んできた本は、置き場がないので屋根裏につめこんでいたら、先日の地震の時部屋中に降り注いで、大変なことになりました。大学を定年で辞め、教官室の本を家に持ち帰るスペースがなかったので、私が書いた本や、技術者向けの本を少々図書館に寄贈させていただきました。変わり種はリストの最後にある「AVシネマ千夜一夜」という本ですが、これは私の還暦記念に自家出版したエッセイ集です。半分ほどは映画の話ですが、私の教育観も読み取れると思いますので、興味がある方はご覧ください。

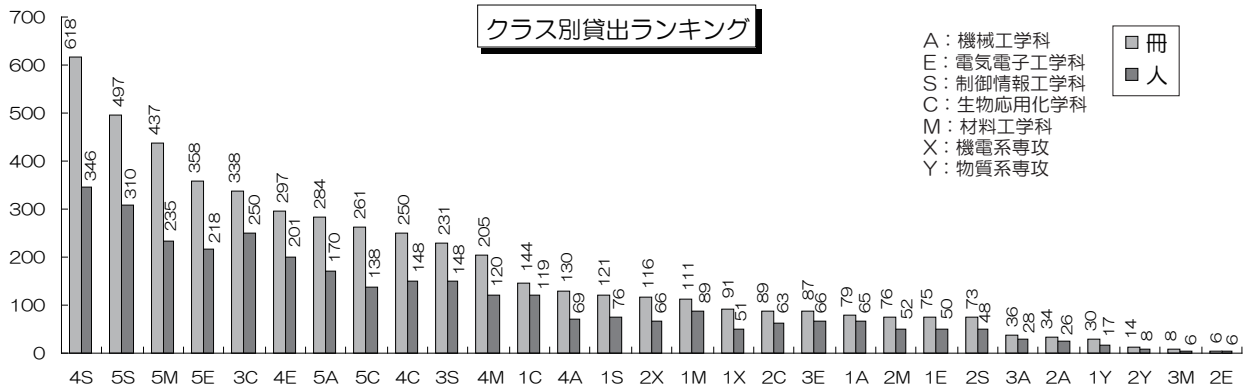
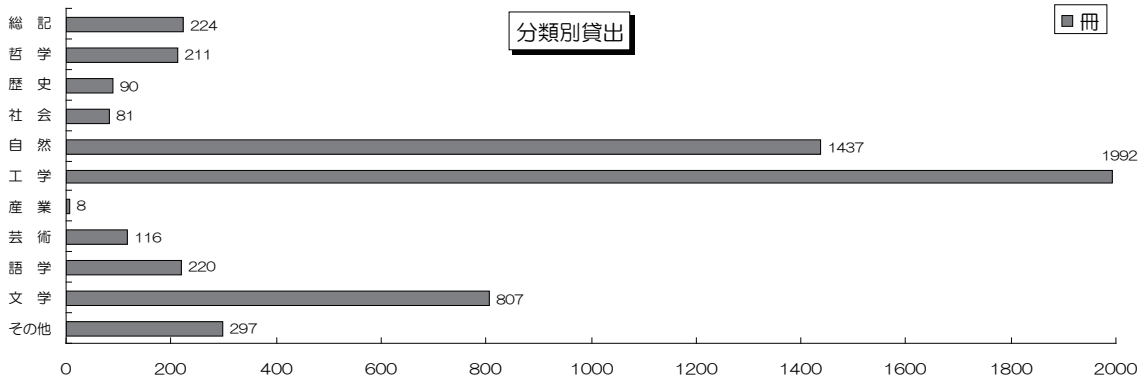
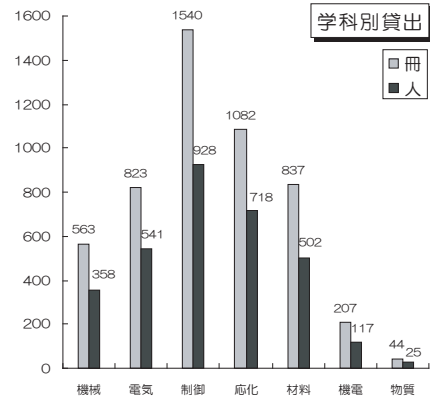
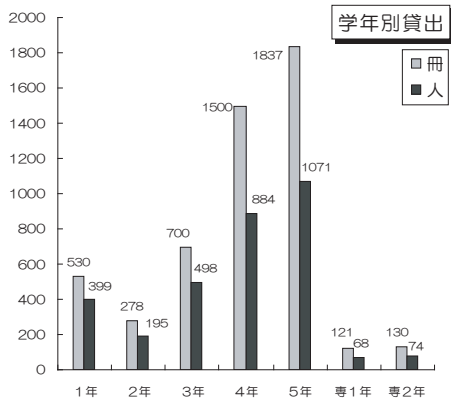
書名	著者	出版社	書名	著者	出版社
Laser-Aided Diagnostics of Plasmas and Gases	Katsunori Muraoka Mitsuo Maeda	IOP Pub	光学材料ハンドブック-材料別製造法と評価技術-		リライ社
電磁気学	卯本重郎著	昭晃堂	電磁気学	河野照哉著	丸善
光学	松村 温著	朝倉書店	はじめて学ぶ電磁気学	太田昭男著	丸善
自己組織化 生物にみる複雑多様性と情報処理	都甲 潔ほか編著	朝倉書店	科技厅九州ハイテク最前線 Part 1~3	三田出版会編	葦書房
岩波数学辞典 増訂版	日本数学会編	岩波書店	電磁気学 I、II	宮副泰著	朝倉書店
味覚の科学	都甲 潔編著	朝倉書店	数学公式 I~III	森口繁一ほか著	岩波書店
光の時代が来た!!	久野英雄著	明日香出版社	味覚を科学する	都甲 潔編	角川書店
キーワード 解説 光技術総合事典	光技術社編集部編	光技術社	レーザー-化学	佐藤博保著	化学同人
最新レーザーテクノロジー-集成		光技術社	空間伝送光学	有賀 規著	水曜社
図解 デバイス辞典		光技術社	レーザー-原理から応用まで	桜井 彪著	ハワース社
レーザーと物理教育-光の中を歩んで-	霜田光一著	学会誌刊行センター	大学と問う 荒廃する現場からの報告	産経新聞社会部編	新潮社
レーザー-	前田三男編	学会出版センター	ガラスマイクロデバイス	菅井秀郎編著	オーム社
レーザー技術の新展開	レーザー学会編	学会センター関西	現代基礎電気数学(改訂増補版)	卯本重郎著	オーム社
レーザーとレーザービーム光学の基礎	ウイストン・E・ジョック著	河出書房新社	物理学の魔法の鏡(現代物理学の世界-III)	デヴィッドウィグナー 他	講談社
毒物学入門	綿貫礼子ほか編著	技術と人間	電磁気学	渡辺征夫ほか著	培風館
共立物理学公式	新楽和夫ほか編	共立出版	レーザーと計測 極限への挑戦	田中敬一著	共立出版
電気・電子工学概論	藤本三治ほか著	共立出版	100問演習 電磁気学	今崎正秀著	共立出版
レーザー応用光学	小原寛ほか著	共立出版	代数学講義 改訂新版	高木貞治著	共立出版
LSI設計入門	佐々木元ほか著	近代科学社	レーザーフォトニクス	田幸敏治ほか著	共立出版
電子工学概論	相川幸作著	コロナ社	電気音響振動学	西巻正郎著	コロナ社
光・量子マイクロデバイス	藤岡知夫ほか著	コロナ社	電磁気学	後藤尚久著	コロナ社
現代物理学をつくった人びと	クワイ著	東京図書	量子電子工学-レーザーの基礎と応用-	氏原紀公雄著	コロナ社
レーザーアプレーションとその応用	電気学会レーザーアプレーションとその産業応用調査専門委員会編	コロナ社	ハルバワ工学の基礎と応用	京都ハルバワテクノロジー研究会編	近代科学社
レーザー応用工学	小原寛ほか著	コロナ社	電気・電子工学の基礎	島谷 信著	産業図書
21世紀産業の大反乱	スティーブ・T・マルティン著	講談社	工学系 物性工学	武藤準一郎著	裳華房
色素ハンドブック	大河原信ほか編	講談社	電磁気学	松山定彦著	裳華房
C&Cテクノロジー	小林宏治著	サイマル出版会	入門レーザー	大津元一著	裳華房
マイクロデバイス機能性色素	時田澄男監修	サイマル出版	量子マイクロデバイスの基礎	大津元一著	裳華房
電磁気学	ドミニク著	ワグネル出版	回路理論	石井六哉著	昭晃堂
先端真空利用技術		日経技術図書	電磁気学	安達三郎著	昭晃堂
日本の技術戦略	三田出版会編	日経サイエンス社	電磁気学の基礎	前田三男著	昭晃堂
電気工学大要	相良節夫	養賢堂	電子情報回路 I、II	樋口龍雄ほか著	昭晃堂
魔法の光レーザー	藤岡知夫著	裳華房	電子物性論	都甲 潔著	昭晃堂
ファイバ光通信	J.C.Palais原著	森北出版	ハルバワ電子回路	田丸啓吉著	昭晃堂
新編 光学材料ハンドブック		リライ社	光マイクロデバイス入門	福光於菟三著	昭晃堂
科学技術の最前線-「日本の頭脳」を現場に追う 1~14	三田出版会編	グレイム社	超電導とは何か スーパーハイテックの衝撃	田中昭二ほか編	日本経済新聞社
ガラス工学	電気学会編	電気学会	半導体レーザー-工学の基礎	沼居貴陽著	丸善
音の歴史	早坂寿雄著	電子情報通信学会	ビジュアルレーザー-の科学	レーザー技術総合研究所編	丸善
特許戦略時代 ルールが変わる、競争が変わる	荒井寿光著	日刊工業新聞社	ゆらぎの科学と技術-フレイクティクス入門-	山本光璋ほか編	東北大学出版会
日本の技術戦略 Part 2 研究開発をどう進めるか	三田出版会編	日経サイエンス社	日本の先端技術21世紀への展望	長崎先端技術開発協議会著	日経サイエンス社
新世代デバイス探索技術集成 第一分冊	水島宜彦監修	リライ社	理工系のための電気工学の基礎	入江富士男著	養賢堂
光技術の半導体製造への応用		光技術社	AVシネマ千夜一夜 ハイライト	前田三男著	ハワースの会

平成16年度図書館利用状況

◆開館日数及び入館者数

月	開館日数	入館者数				一般利用者数 (内数)	一日平均 入館者数 (四捨五入)	備 考
		平 日		土曜日	合 計			
		時間内	時間外					
4	24	4,327	510	101	4,938	11	206	
5	23	3,893	650	214	4,757	17	207	
6	26	5,087	1,082	236	6,405	15	246	
7	24	6,477	710	177	7,364	8	307	
8	17	1,943	0	0	1,943	9	114	休業期間中につき時間外開館なし
9	23	2,244	261	150	2,655	13	115	
10	25	3,252	534	207	3,993	43	160	
11	24	3,227	632	84	3,943	7	164	
12	21	3,374	601	55	4,030	7	192	
1	22	3,492	757	146	4,395	23	200	
2	23	4,869	841	481	6,191	15	269	
3	24	2,614	224	66	2,904	9	121	
合計	276	44,799	6,802	1,917	53,518	177	194	

◆図書貸出状況



Information

下記のとおりお知らせいたします。開館時間の変更及び臨時閉館にはご注意ください。

夏季休業特別貸出

- ◆貸出期間：7月13日（水）から 8月24日（水）まで
 - ◆返却期日：9月1日（水） ◆貸出冊数：5冊以内
- ※一般利用者及び教職員は通常貸出です。
※返却日厳守の事

開館時間の変更

- 7月21日（水）から 8月31日（火）まで
- ◆月曜日～金曜日 9時～17時
 - ◆土・日曜日、祝日 休 館
- 時間外開館は行いません。

図書館ホームページへのお誘い

図書館のホームページには、利用の仕方、新着案内、お知らせ、蔵書検索、電子ジャーナル等々いろいろな情報提供の窓口があります。一度ご覧ください。
URLは下記のとおりです。

<http://www.cc.kurume-nct.ac.jp/LB/library.html>

図書返却日は厳守してください。

閲覧室内での、飲食・携帯電話の使用・騒がしい行為や雑談は禁止です。…………… 注意してください。

《編集後記》

なんとか図書館だより 66 号をお届けすることができたようです。新任の校長をはじめ、先生方や学生諸君に、図書にまつわる体験などを書いて頂きました。皆さん、楽しんで頂けたでしょうか。夏休み中の読書の参考になれば、図書館だより作成に携わった者として、幸いです。

図書館では、以前のように、ロビーに机・椅子を戻して利用スペースを広げるなど、図書館をより便利にご利用

頂けるよう、改善に取り組んでおります。図書館の利用について、また、読みたい図書についてなど、ご要望をお寄せください。今後の活動の参考にさせていただきます。

最後に、慣れないことばかりで編集作業が遅れ、執筆者、及び関係者の方々には大変ご迷惑をおかけしました。この場を借りて、お詫びいたします。

（図書主幹 山崎 有司）

発行日：平成17年7月11日

発行・編集：久留米工業高等専門学校図書館 Tel：0942-35-9306 Fax:0942-35-9307
〒830-8555 久留米市小森野一丁目1番1号 E-mail:L-staff.GAD@ON.Kurume-nct.ac.jp